

## 脳神経外科 臨床研修プログラム

### I) 到達目標

中枢神経および末梢神経系疾患を専門に治療する脳神経外科の日常診療に必要な基本的知識と技術を習得するとともに医師としての責任と態度を学び、患者の QOL の向上を軸として医学と医療に対する社会的要求に対応できる医師を目指す。

### II) 基本方針

脳神経外科領域の診察法・検査・手技を習得した上で、手術を中心とした脳神経外科領域の治療を理解し、習得することを基本目標とする。

一方、アドバンスコースとして脳神経外科のより専門的な検査と治療に主体的に参加できるように、指導医のもとで研修することも可能である。

### III) 研修内容

- 1) 患者および家族とのコミュニケーション、病歴聴取、神経学的検査法、神経放射線学的検査の実際、画像読影診断、手術計画、患者・家族への病状説明、術前・術後管理、救急対応に関して、担当医から指導を受ける。
- 2) 脳血管撮影および脳血管内手術に立会い、脳血管の解剖学的構造を理解するとともに、動脈穿刺やマイクロカテーテルを含めたカテーテル操作などの検査・治療手技を習得する。
- 3) 脳神経外科手術に積極的に参加し、手洗いや清潔操作を理解し、脳の構造および病変の様態を直視する。開閉頭時に第 2 助手としての役割を遂行し、基本的な外科手技を習得する。顕微鏡下脳神経外科手術 (microneurosurgery) に立会い、実際に顕微鏡からくも膜下腔の脳血管や脳実質および脳神経を観察する。
- 4) 外来では、担当医の指導のもとで初診患者の病歴聴取を行い、鑑別診断を考慮して必要な検査を想定する。次いで、担当医の診断および検査の進め方を見学し、外来診療の重要性を学ぶ。
- 5) 担当医の指導のもとで下記の重要疾患において術前患者を受け持つ。

脳腫瘍 : 神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫など

脳血管障害 : くも膜下出血 (脳動脈瘤、脳動静脈奇形、もやもや病)、脳内出血、  
脳梗塞、一過性脳虚血発作、頸動脈海綿静脈洞瘻

頭部外傷 : 頭蓋骨骨折、急性硬膜外出血、急性硬膜下出血、脳挫傷、外傷性くも膜下出血、慢性硬膜下出血、外傷性髄液漏 など

感染性疾患 : 脳膿瘍、髄膜炎、脳室炎、脳炎 など

先天奇形 : 水頭症、キアリ奇形 など

機能的疾患 : 顔面痙攣、三叉神経痛、てんかん など

脊髄・脊椎疾患　：　脊髄髄内腫瘍、脊髄髄外腫瘍、脊髄動静脈奇形

#### IV) 教育体制

- 1) 月曜日から金曜日までの朝8時および夕にICUを含めた病棟回診を行い、患者の病態把握と治療計画を行なう。
- 2) 月曜日回診時に術前・術後の症例検討を詳細に行なう。術前では、手術体位、皮膚切開、開頭部位および硬膜内操作などの手術計画を立てる。